

所属・氏名（ 看護学部 看護学科 氏名：竹山 広美 ）

	著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の 名称	概 要
1	(学術論文) 終末期肺がん患者の倦怠感の緩和に対する介入プログラムの検証	共	2017.3	広島国際大学看護学ジャーナル, 14(1)	倦怠感のある終末期肺がん患者を対象に介入プログラムを作成し、アロママッサージを実施した。実施後、心拍数・血圧値の変動はほとんどなかった。しかし、Cancer Fatigue Scale (CFS; 倦怠感評価尺度) の変動があり、対象者の「楽になった」などの反応や入眠を促す効果があった (p.81-89)。 担当: 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (高橋智恵, <u>竹山広美</u> , 岡光京子)
2	(学術論文) 看護学生の統合看護学実習における緩和ケア病棟での学び—実習終了後のレポートから— 《筆頭論文》	共	2017.3	看護・保健科学研究誌, 17(1)	A 大学看護学科 4 年次生のうち、統合看護学実習を緩和ケア病棟で実習を行った学生の実習終了後のレポートから学生の学びを明らかにした。学生は実習目標の「トータルペインの視点からの対象理解」「尊厳を考えた看護や多職種との連携」など、これまでの臨地実習の経験を活かして、学びを深めていた (p.92-100)。 担当: 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (<u>竹山広美</u> , 岡本裕子, 野間雅衣, 秋山智)
3	(学術論文) 看護教育の場でセルフケアの元気効果の検討	共	2019.3	看護・保健科学研究誌, 19(1)	健康な成人女性を対象 42 名にセルフヒーリングタッチ (以下 H.T), 音楽聴取がもつ元気効果をストレス指標と心理状態の二側面から調査した。心拍変動や他の客観的な指標では両者の間に有意差はなかった。POMS では音楽で全項目の有意な低下があり, H.T では「活気」が有意に上昇, 他 5 項目は有意に低下など, リラックスと精神的な高揚が共存する状況であった (p.10-19)。 担当: 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (岡本裕子, 高橋登志枝, <u>竹山広美</u> , 坂村八恵)
4	(学術論文) 青年期にある学生の死生観に関する研究の文献レビュー 《筆頭論文》	共	2019.4	広島国際大学看護学ジャーナル, 16(1)	青年期にある学生の死生観に関する研究の概要と死生観形成の影響要因について文献レビューを行った。結果, 死生観形成の影響要因は, 《死に関する身近な経験》《疑似体験》《死生観に関する教育》など 5 カテゴリーが抽出された。核家族化している現代の青年期に死を身近に経験することは少ない。死生観形成への支援として疑似体験を含めた死生観に関する教育などが示唆された (p.29-38)。 担当: 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (<u>竹山広美</u> , 岡光京子)
5	(学術論文) 患者の病いの体験の意味づけに関する文献レビュー 《筆頭論文》	共	2021.3	姫路大学大学院看護学研究科論究, 4	がん患者の病いの体験の意味づけは, <これからの生き方を見出す><自分らしく生きたい>など 6 つに分類された。ALS 患者など非がん患者の病いの体験の意味づけは, <病いと向き合い方を見出す><病いと生活を共にする>など 4 つに分類された。がんや非がんの患者とも共通した意味づけがされている一方で, 進行がん患者は, がんに罹患しても変わらない自分で在りたい, 最期まで自分らしく生きたいと意味づけていた (p.71-80)。 担当: 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (<u>竹山広美</u> , 掛橋千賀子)